

様式

技術名称	環境共生型構造物の計画・設計・モニタリング技術 エコシステム式海域環境保全技術	技術の分類	環境改善	NETIS登録の有無 (有場合はNETIS番号)	なし
会社名等	株式会社 エコー	担当者	山本秀一	連絡先	03-5828-2188
技術の概要	エコシステム式海域環境保全技術は、全国各地の港湾で行われている「生物共生型構造物」の一種です。構造物の基本機能に影響を与えず、生物環境に配慮することができます。対象構造物の周辺環境の現状や住民ニーズや予算に合わせて柔軟な対応が可能な技術です。 当社では国内各地での実績により、環境共生型構造物の計画・設計・モニタリング技術を保有しています。	添付資料	パンフの有無	有り	
			その他の資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エコシステム式海域環境保全工法適用マニュアル(生物共生型構造物適用の手引き)(2010)高松港湾空港技術調査事務所</li> <li>・土木学会等への発表論文多数</li> </ul>	
技術の特徴	<p>○エコシステム式海域環境保全技術は、直立型構造物に人工浅場を付加する技術です。港湾機能との共存(一体化)が可能ですから、適用に伴う自然環境への影響や海域利用者との調整などの特別な負担は生じません。</p> <p>○適用後は、自然環境の生態遷移に任せておけるため、特別な維持管理は不要です。</p> <p>○当社は、2010年度高松港湾空港技術調査事務所からの委託により、本技術の計画・設計・モニタリングノウハウをとりまとめた「エコシステム式海域環境保全工法適用マニュアル」を作成しました。</p> <p>&lt;事業化の事例&gt;</p> <p>○2005年度に、三島川之江港の金子地区防波堤で事業化されています。</p> <p>○2010年度までのモニタリングで整備目標の達成も確認されており、対外的な評価も受けています(土木学会等)。B/Cの検討結果からは、本工法の投資効果も検証されています。</p>	その他	<p>○港湾行政では、“港湾行政のグリーン化”のもと「環境配慮の標準化」が求められています。老朽化した港湾構造物の改修・更新および新規事業の際には、本工法を適用することが、有効な手段の一つと考えられます。</p>		

※複数の技術について発表をご希望の場合は技術ごとに記載願います。